

フォレスト ウィンズ Forest Winds

もりからのかせ・東北



No.104 December 2025

東北地方の民有林における 近年の主伐傾向

🌲 素材生産量の増加

戦後日本では、里山の薪炭林や採草地、奥山の天然林を、スギやヒノキ、カラマツ等の針葉樹人工林へ転換する拡大造林が進められました。これらの針葉樹が成長し、2000年代後半頃から主伐期を迎え、素材生産量が全国的に増加しています。素材生産量は、北海道や東北および九州で多く(図1)、とりわけ東北地方の生産量はこの20年で大きく増加しました(図2)。こうしたなか、民有林では、所有規模の零細さや所有関係の複雑さが、伐採やその後の再造林など森林施業の実施を妨げている可能性があります。そこで、1980年代半ばから現在まで、東北地方の民有林における主伐地の分布の移り変わりを調べました。

🌲 東北地方の主伐傾向

時系列の衛星画像を用いて1985年以降の毎年の主伐地の広がりをも日本全国で追えるデータベースが公開されています(志水, 2024)。そこで、このうち東北6県分を用いて、1985年～1990年代、2000年代、および2010年代以降の3時期の

主伐地分布を捉え(図3A)、地形、積雪、道路からの距離、森林の種類、所有形態などとの関わりを解析しました。

その結果、東北地方全体では、積雪深が大きく、小規模な山林を所有する世帯の割合が高い地域ほど、主伐が少ない傾向が3時期を通して見られました(図3AB)。積雪深が大きい地域は林業不適地が多いことや、所有規模が小さいほうが山林に関心を持ちにくく、伐採などの施業を主体的に意思決定しにくいことが理由と推察されました。また、2010年代に入ると、緩傾斜の針葉樹林で主伐が増えるなど、主伐期を迎えて伐採傾向が

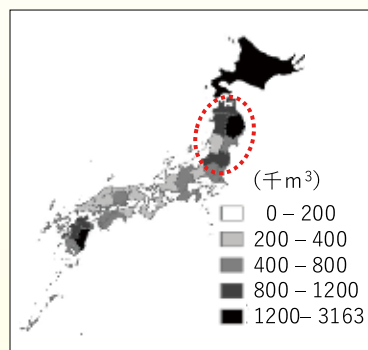


図1 都道府県毎の素材生産量(R3年度)。森林・林業統計要覧2023より作成。

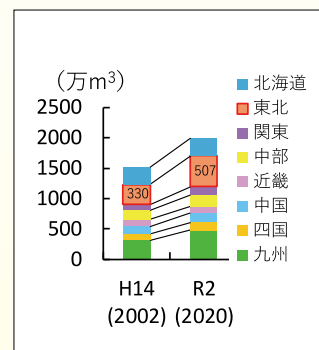


図2 素材生産量の増加。令和3年度 森林・林業白書より作成。



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所

Tohoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute,
Forest Research and Management Organization, National Research and Development Agency

変化しつつあることが分かりました。

主伐地と所有の複雑さ

主伐地分布の地理的傾向をより詳しく検証するため、小規模な山林所有世帯の割合が高い、秋田県北部の米代川上流部3市町(大館市、鹿角市、小坂町)における主伐地の分布を、小班毎の面積、林齢、所有形態等と関連付けて解析しました。ここで用いた、個人情報を含まない森林簿や森林計画図のデータは、秋田県庁より研究目的で提供を受けました。その結果、東北全体と同様、積雪深が大きい地域で主伐が避けられる傾向が一貫して見られました。また、東北全体では調べていませんが、市町村外在住者が所有する山林はやや主伐されにくい傾向も一貫して見られました。また、東北全体よりやや早い2000年代以降には針葉樹林の主伐が増え、2010年代以降には道路に近い緩傾斜地で主伐が増えていました。さらに、東北全体と異なる傾向として、単位面積あたりの所有者や小班の数が多い(即ち、小規模山林所

有者が多い) 場所で2010年代以降に主伐が増えていました。地域によっては、高まる素材需要を受けて、所有者と施業者の意思疎通が進み始めると推察されました。

主伐後の再造林

東北地方の民有林では、再造林率が一般に低いことが知られています。今回用いた主伐地分布の全国データベースでは、主伐後の再森林化(常緑や落葉の広葉樹林や針葉樹林になっているか)も継続把握されています。どのような場所で再造林されやすいのかを明らかにすることが今後の課題です。

引用文献

志水克人(2024) 森林伐採の箇所と面積を衛星データで把握する(シリーズ 森をはかる その82). 森林科学 101:208-209.(https://doi.org/10.11519/jjsk.101.0_28) (森林伐採データベース: <https://zenodo.org/records/17221149>)

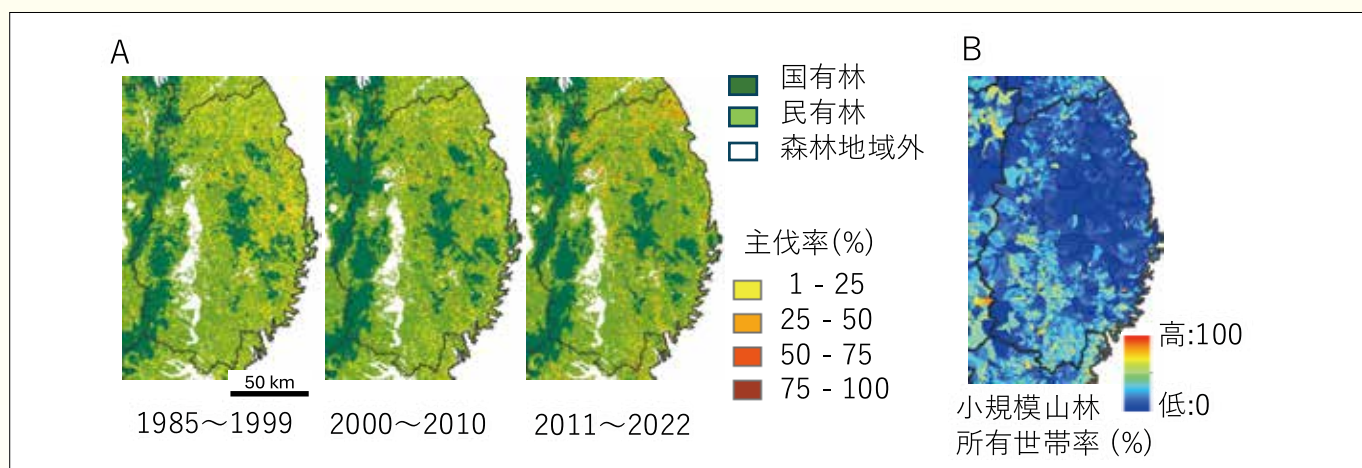


図3 A.岩手県における主伐地分布の変化。300m四方毎に主伐地(森林以外への土地利用転換地を除く)の面積率を主伐率として算出。B.集落毎の小規模山林所有世帯率(出典:小規模山林所有実態が分かる1995年世界農林業センサス)。

●森林資源管理研究グループ 松浦 俊也



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用



Forest Winds No.104

令和7年12月15日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 東北支所

〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25

Tel.019(641)2150(代)

Fax.019(641)6747

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/>